

第4節 平成30年度 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属山口小学校運動場鉄棒改修工事に伴う立会調査

調査地区 共用棟A南東側運動場

調査面積 15㎡

調査期間 平成31年2月18日

調査担当 横山成己

調査結果

平成30年(2018)末に至り、教育学部より附属山口小学校運動場の老朽化した鉄棒の撤去・新設工事の相談が寄せられた。新規鉄棒の基礎掘削は布掘りで総延長26m、幅80cm、深さ60cmとのことであった(図66)。

共用棟A(旧給食棟)に隣接する運動場敷地での調査歴は少なく、今回計画地に最も近接して調査されたのは、共用棟Aの南西10m地点で実施された試掘調査で、地表下80cmに地山を確認しており、ピットの可能性のある落ち込みを検出している^{註1}。当工事計画に対しては、第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(12月14日(金)～(メール審議))にて埋蔵文化保護対応が諮られ、立会調査を実施することが承認された。

調査の結果、掘削範囲全域で層厚20cmの表土、層厚30cmの造成土、層厚10cmの灰オリーブ色(5Y6/2)シルト(旧耕土)が確認された。北東端部から南西8mの地点はやや深掘りされており、旧耕土下に旧床土とみられる浅黄色(2.5Y7/3)シルトが確認できた。その下位は遺物包含層または地山と予想されることから、周域では70cm程度の掘削で埋蔵文化財に支障が生じる可能性があり、注意が必要である。

【註】

1) 河村吉行・杉原和恵(1987)「亀山構内教育学部山口附属学校汚水排水管布設に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』, 山口

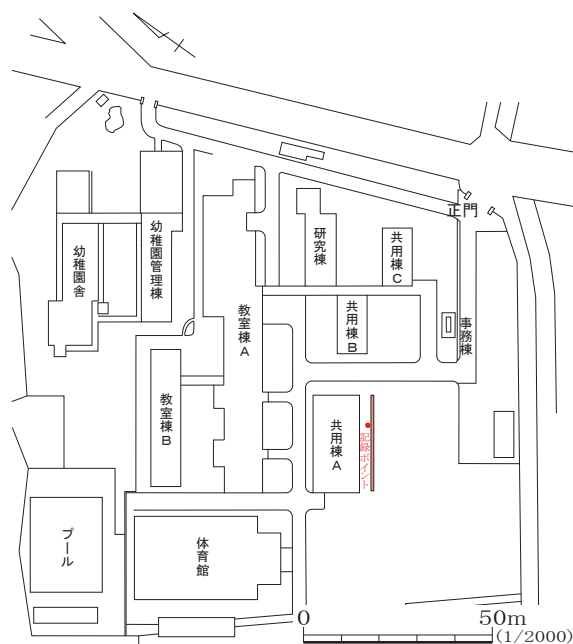


図 66 調査区位置図



写真 240 調査区北東端部土層断面 (南西から)



写真 241 調査区北西壁土層断面 (南東から)

調査区北西壁

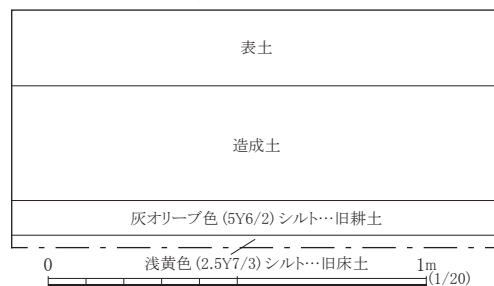


図 67 土層断面柱状図